

農業環境部地域デザイン班の活動

活動日:月・金・(土・日)

活動場所:園芸実験室・圃場

活動テーマ「栃木市の農を学ぶ」

テーマ① 《栃木市伝統技術を学ぶ》

栃木県は、鹿沼市の「鹿沼箒」や都賀町(現栃木市)「都賀の座敷箒」など全国有数のほうきの産地であった。これらの箒は、箒の根元にある「蛤(はまぐり)」という草が細かく編み込まれた部分が最大の特徴であり、他の箒にない美しさ・丈夫さを有している。

しかし現在では、生活スタイルの変化などにより、箒を見かけることは少なくなった。今では職人さんは数えるほどになってしまい、箒(ほうき)の原料となる草(ホウキモロコシ)を栽培する農家さんも高齢になり引退するなど、その数は数えるほどになってしまった。

また、近年国産箒(ほうき)の需要が増えており、特に都心近郊への販売が急務となっている。そこで、私たち高校生がホウキモロコシの栽培と座敷箒の伝統技術を学び、地域小中学校等と連携、栃木市特産品を全国に発信していく。



ホウキモロコシ



ホウキ作り

テーマ② 《栃農式有機農法を確立する》

化学肥料・化学農薬を使用せずに、自然の力と有機物を利用する農業を開発します。本校の圃場にて試験栽培しながら、栃木市の有機栽培農家さんと連携し、有機栽培を発展させます。また、地域イベントへ参加することで地域との繋がりを深めていきます。

『学校で得た学びを地域に還元する、又は地域から得た学びを学校に還元する

農業高校に入学したからには、農業で生きる術をとことん磨き抜く

自分に何ができるか、やれることをやろう

地域を見つめ直し、世界を見よう』

